

## 令和6年まちづくり懇談会会議録

開催日時	令和6年2月15日(木) 18:00～18:53
会場	本桐生活館
自治会名	本桐連合自治会
出席者	<p>【町側】</p> <p>大野町長、田中副町長、久保田教育長、柴田総務部長、上田保健福祉部長、水谷産業建設部長、藤沢教育部長、中島地域振興部長、渡辺地域振興課長、森多地域振興課長補佐 10人</p> <p>【自治会側】</p> <p>6人(男性6人、女性0人)</p>

### 《顛末内容》

主 な 内 容	
開 会	18:00～ 渡辺地域振興課長
自治会長挨拶	<p>皆様こんばんは。年明け早々1日、青天の霹靂という言葉がございませけれども、まさかと思うような事態が起きました。御存じのとおり石川県能登地方でとてつもない大地震ということで、その中で、不幸にして亡くなられた方、それから御遺族の方には心から哀悼とお悔やみを申し上げます。また被災され、生活及び避難生活を余儀なくされている方々が一刻も早く元の生活に戻るよう、祈念を致したいというふうに思っております。本当にこんなことが起きるのかなというような気持ちでございました。本日は本桐地区のまちづくり懇談会ということで、公務お忙しい中、また日中の仕事でお疲れのところ、雨の降る中、町長はじめ職員の方々、皆さんお出でをいただきまして誠にありがとうございます。また、町議さんを含め住民の方々、参加をさせていただいてありがとうございます。少し人数が少ないですが、充実した意見交換等を行っていただければ幸いかなと思います。私も、先ほど触れました、地震の件につきまして、避難所のこと備蓄であるとかそういう面についても、質問をさせていただきたいというふうに思っておりますので、ひとつよろしく有意義のある懇談会でありますよう、期待を致しまして開会の言葉に代えたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。</p>
町長挨拶	大野町長挨拶
資料説明 上田保健福祉部長	1. 東静内郵便局、本桐郵便局での住民票等証明書の交付サービスの終了について
質疑	特になし

意見交換  
自治会員A  
・防災について

それでは、私の方から、先ほど挨拶の中でもちょっと触れさせていただきましたけれども、今回の能登の地震、それからですね去年は熊本の洪水、それから遡りますけれども、胆振東部の地震、そしてまた去年の終わりの方でも、留萌地方で洪水なんかの被害もあったように聞いております。このネット等の情報、地震に関するものを色々と見ますと、よく言われる、南海トラフ沖の地震というのは真っ先に話題に上っていく訳ですけどもそれに負けず劣らずで、危険性があると言われているのが、千島から根室、釧路に向けての、海溝に關しての地震、これも年数が相当経ってしまっていて、大きな地震がいつ来てもおかしくない、むしろ、南海トラフよりもその危険性が高いのではないかという、一部そういう説もあるそうでございます。まずはその津波ということと、それから地震ですね、当然その地震に伴って津波が起きる訳ですから、この備えというのが今回の能登の地震のテレビ報道、あるいはネットの報道なんかを見ましても、非常に困難な状況が生まれていました。自治体の皆さん、自衛隊の皆さんの活躍もさることながら、能力を上回ってしまうような大きな災害が起きてしまったということで避難所生活も非常に厳しいところがあるというふうに伺っております。そういう面に当たりましてですね、この当町のいわゆるそういう災害、大災害に備えての備蓄あるいは避難所の体制、その支援体制というのがどのようになっているのか、概略でよろしいですからまずはそれをお伺いしたいなというふうに思います。どうぞよろしくお願い致します。

柴田総務部長

防災担当の部長として私の方からお答えさせていただきます。

基本的な防災対策の体制ということですけども、ちょうど1年前に、防災のハンドブックを全戸に配布させていただきました。そこには最新の津波のシミュレーションですとか、あと河川氾濫洪水のシミュレーションなんかもお示ししながら、それぞれ、例えば地震津波であれば、一時的に逃げられるような箇所がどこにあるのか、避難所として候補となるものがどこにあるのかという示しとともに、日頃防災の備えについても記載させていただきました。ただ、これを配付したところで、なかなか浸透もしないということもありまして、今年度特に月2・3回のペースで防災講話というものを各自治会、地域に回らせていただいております。そういう時に、日頃の心構えですとか、そういうものの意識を高めてもらい、願わくは自主防災組織ですとか、いわゆる共助、互いに助け合うという部分で意識を高めるための活動をコツコツと積み上げてきております。なかなか真っすぐ自主防災組織とか、流れはつくれないですけども、まず、自分の命は自ら守るという自助の部分と、あと新ひだか町と協力し合って守るという共助の部分、ここが初期段階では、1番重要でありますので今後も引き続きと思っております。一方具体的に町側の体制としましては、冒頭で町長からも少しお話ありましたけれども、一定数の備蓄品を整理してございます。具体的には、皆さん多いと感じるか少ないと感じるか分かりませんが、新ひだか町全住民の1割の人が避難所生活をするとした場合に、3日ほど食事等ができるようなお米、飲料水、あとお子さん向けの遊具ですとかを用意しているほか、毛布、ベッド、発電機、ストーブ等を取り揃えて用意しております。

	<p>ただそれでも保管し切れない場合も想定されますので、地域の、例えばイオン、セブンイレブン等、飲食関係の店舗と協定ですとか、あとホクレン、ガス協会等、そういう多数の30ヶ所ぐらいですね、災害協定を結んだ中で、いろんなところを補完していこうと。最終的に能登の様な地震となれば、国、道の支援を待つということしかなくなる訳ですけども、一定数の備蓄はしてございます。ただ、特に地震の時には、我々職員サイドも、十分被災している可能性が高いということで、町の防災の職員マニュアルとしましては、震度4の地震が出れば、職員は自主登庁ということで、参集をして状況把握をした上で対応に当たることになっておりますけども、これも、書いてあるとおり動けるかどうかは分かりませんが、定期的に訓練等もしながら備えをしているところでございます。大まかに言うとそんな状況でございます。</p>
自治会員A	<p>町民、約1万人分の備蓄として3日分を用意されているということでした。</p>
柴田総務部長	<p>全町民の1割、2,000人分、2,000人掛ける3日分です。</p>
自治会員A	<p>今、ご説明をいただいてある程度概略は分かりましたが、報道を見ていますと、特に避難所の生活の中で私がテレビやネットを見て、これは本当に大変だな、心労も重なるなと思いましたが、一つはまずそのほとんどが体育館とか公共施設に集まるわけですけども、そういう中で、床に毛布を敷いて、そこでまず寝食をしなければならぬということですので、プライバシーの確保が全然保たれないという問題がやはりいつも起きるということで、これについて何て言いますかそういうことが起きるんだ、そしてそういうのも大切なんだという意識がどうして十分に生まれてきてないんだという問題があるというふうに私も感じております。それから寝るにしても、段ボールベッドとかそういうものがあるというふうにお聞きしましたけれども、やはりそういうものも十分な数が必要だと思いますし、それから女性はその行為のための、何て言いますかコーナーであるとか部屋であるとかボックスであるとか、そういうものもやっぱり配慮してあげていただきたいなと思ったり、それに乳児を抱えた女性の方はですね、授乳室とか、それからそれもボックスであるとか、そういうプライバシーを保てるようなもの、それから、小さなお子さんですと夜泣きをするとか、慣れない環境ですから泣くお子さんもいるということで、やはり、そうするとお母さんが大変でその周りに気遣いをしてしまうと、心労も絶えないことになると思いますので、そこら辺の対策もどのようにするかと、やはり安心して子どもを連れて、周りに迷惑と言ったらあれですけども、そういう負担をかけないような、生活ができるという配慮もしていただきたいなと、これもやはりその、避難民からの切実な声ということで上がっていたものでございます。なるほどと思ったり。それから、地震といいますと、もうすぐに断水と停電ということがついて回るというふうには思っております。これは特に町の中でそういう状態が起きやすいのかなと思ったりもしますが、やはりその避難所にこの水の問題というのがすぐ問題になってくると、給水車で水を供給できるという体制になっても、その水の量が限られてしまったり、給水車が次に来る</p>

のを待たねばならないというようなことではちょっと困ると思いますので、大きな例えですが5,000リットルぐらい入るような、貯水タンクをすぐさま設置できるような、そして給水車がすぐそこに来てポンプで水をそのタンクの中に入れてまたほかのところへ回る、給水車が十分に動き回れるような状況も確保しておいて欲しいなというふうに思います。それからですね、発電機も用意されていると聞きましたけれども、ある避難所ではですね、寒いもんですから、やっぱり暖房器具を持ち込んで、それでもっていわゆる供給電力をオーバーヒートしちゃうということもありますんで、ある程度大きな自家発電機とかですね、そういうものもやっぱり、避難所ごとに、避難所だって、そんなにべらぼうな数になる訳じゃありませんから、やはりそういうところでですね、中規模クラスの、やっぱり体育館とかですね、もし停電になったら、それが期待できない訳ですから、そういう面もやっぱり考慮しておいて欲しいなというふうに思います。それからもう常に、避難所生活で問題になるのがトイレの問題ですね。食べる、要するに排せつをしなければならぬのは常ですから、問題がいつもこう、被災のたび災害のたびに問題になるというのは、これもやっぱり、十分な数を確保出来ていない。そこに至っていないということが、やっぱり根本原因があるのかなというふうに思います。こういうものをですね、もろもろ含めるとやっぱり防災の備えと備蓄品というの、やはりかなりな数と金額が必要になってくるとそこで私はちょっと提案してみたことを申し上げたいなと思うんですけども、こういう災害に対してですね、自治体同士の連携といいますか協定といいますか、相互に支援をし合うというようなことは、道内でどれぐらいできているのかなというふうにちょっと調べてみても、余りばつとしたものが出てこない。災害が起これば駆けつけるということはありません、ふだんからそういう協定を結んでですね、例えば備蓄品にしても、例えば1,000万の予算をかけました、ですけども二つの自治体が協力して行えば、例えばですね、太平洋側と日本海側あるいはオホーツク海側の自治体が協定を結ぶということになれば、同時に大きな被害を受けるということは余りないと思うんです。例えば津波にしても、洪水にしてもそういうことになると、やはりそういう少し離れたところであってもそういうところと協定を結んで、同じ額の予算でも、容量が2倍になる訳ですよ、物資の数は。それと予算の関係で、十分に備えられないものも備えられる可能性が出てくると。さっき言いました自家発電機とかそういうものは金額もかさむ訳ですけども、そういうものも用意できるようになるだろうと。またそれを、すぐさま運んで来られる様な、そして道路の状況も確保できる様な、建設業界であるとか土木業界であるとか、それから運送業界とのそういう災害時の提携と協定というのものも、やっぱりふだんから必要になってくるだろうなというふうに思いました。やっぱりそういうことをですね、十分に検討されてですね、私思うのは、大地震とか大災害になったときに、職員の方も被災する訳ですよ。家族の方も心配だけれどもお父さんは役場に出ていかなきゃならないということがあって、非常にストレスを感じた者が仕事をしなければならぬと、そういう時にですね、自治体同士が支援をし合うということであれば、やはりその業務の代行であるとか支援をしてもらえるということであればですね、ストレスもそう強くなく、効果的な町

<p>自治会員B ・町道について (要望事項より)</p>	<p>民への支援体制ができるのかなというふうに思います。そういうことを含めてですね、今後やはり検討していただけたらなというふうに思います。ちょっと長くなりましたけども、よろしくお願ひしたいと申します。</p> <p>去年も要望事項に上げたと思いますが、道路の道道ではなく家の方、店に入ってきている町道だと思うんですけど、段差が2か所あるんですよ。そして大きい障がい者の車とか、灯油積んだタンク車等ダブル履いているもんだから、私ら茶の間にも結構振動がするんです。それで、12月始めだと思いますが、町の人が来てメジャー出して測っていったんですよ。私、立ち会ってくれって言うもんだから、立ち会って今年のものになるんですかって聞いたら、その方何か、建設課の人じゃないんで、私ちょっと返事しかねるって話だったんです。そうかという話でもう1か所私の家からちょっと入って、同じ自治会の●●さんという住宅があるんですけど、その横の道路が、二、三年前だと思いますが水道の工事をやって、そこもやっぱり段差がひどいらしいんですよ。そして冬になったらやっぱり雪が溶けたりして凍ってしまうし、夏だったら雨で水がはるって訳です。それで、一緒に立ち会って見たんですけど、返事しかねるって言ったもんだから、どんな具合かなあと思ってちょっと聞きたいなと思って。</p>
<p>水谷産業建設部長</p>	<p>町道関係なので、私のほうからご説明させていただきたいと申します。</p> <p>まず町道関係ですけれども、そういった特に冬期間はこういった凍土をして段差、地盤の悪いところの段差が発生しやすいようになっております。先ほど現地の方に見に来られたということですが、多分地域振興課の方が現地の方を、初めの調査を実施したかな。その後ですね、この内容を建設課にも情報をいただきまして、建設課のほうでも現地を確認して、町道の補修を進めていきたいと思っておりますので、今ですね冬期間になってくると、舗装の段差だとか、なかなか施工しづらいものですから、この場でまた現地のほうの路線だけでなく、他の路線のデーター、危険な場所だとか走行に支障があるようなところは調査しまして、春から修繕を始めていくような形ではありますが、ちょっと予算の関係もあって、引き続き調査、対応していきたいと思っております。</p>
<p>自治会員B</p>	<p>私の店と住宅がくっついているんです。一戸建てなもんですから、それまでテレビなんか見ても、乗用車はそんなに揺れないんだけど、ダブル履いているトラックとか運送会社とか、やっぱりああいうトラック系が走ると結構振動、2か所だもんですから、結構茶の間でテレビなんか見ても振動するんですよ。それで去年も要望事項に出したんですけど、優先順位もあるという話ですから、何とかなるべく早くやってもらいたいなと思って申します。よろしくお願ひします。</p>
<p>水谷産業建設部長</p>	<p>早い段階で対応したいと思っております。</p>

<p>自治会員C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災について</li> <li>・国保病院について</li> </ul>	<p>うちの自治会、本桐では1番大きな自治会で47戸の戸数の自治会です。私ども先ほど自主防災の関係がありましたけれども、自主防災組織があります。けれども、活動は、私の前の前の担当者、その前の担当者が組織を作ったみたいですが、詳しくはちょっと分かりませんが、その組織作っているんですけども、活動が出来ないという理由の中に、まず一つ、自治会の会員さんの集まりが無いこと、それから自治会を守っていく会員の中の全員じゃなくて、自治会の会員として、単身世帯と、生活保護世帯を抜いた会員の中で、自治会長の役員すらやりたくないという方が多いもので、ここの生活館の中に、自主防災のヘルメットだとか懐中電灯だとか、そういったものも一応あります。ヘルメットについてはきっと、あれもなんか消費期限みたいなのがありまして、使えない状態でないかなと、懐中電灯だつて入れてから、一切いじっていないみたいですから、使えない状態かなというふうに思います。当然、私が最初、この自治会組織でできた時に、会員の皆様、前の自治会長に組織を作るのであれば、本桐連合自治会を主体とした組織にして欲しいというふうにお話ししてありました。けれども、今の現況は、本桐第4自治会が自主防災組織をやっている、12自治会のうちのひとつです。このような形でやってきましても、私も若いつもりでいたけど、もう紅白まんじゅうをもらわなきゃなんないような、年になってきていますので、その方が自主防災組織の中で、どのように行動できるかと私より先輩の方もいますし、ここの会場に来てくれている私ども自治会長なり役員さん見ても、皆さんある程度の年齢は先輩になってますんで、なかなか行動するには難しい状況になっています。それでですね、何かあった時にこの生活館が防災の逃げ場になるというふうに考えております。そうなったときに、ここを利用する方は何とかいいですけども、役場の方の防災マップ見ますと、何かあったらあと三石のスポーツセンターに行ってくださいとか、こっち側、富澤の方に行ってくださいとか、歌笛に行ってくださいとかってあるけども、それぞれ行く場所に、円昌寺の方へ行けば、水がふだんでも出るような状況、こっち側から行けば、中村建設さんの向こうから、水が出るような状況、逃げる先は無いから、大人しくしていた方がいい、橋渡って川向の方だつてこちらに来るのは難しい、前に私ちょっと言ったら、役場の人にも言われたんですけども、役場建てる時にもあそこの海岸線に元の場所に、役場の庁舎建てたと。自主防災で1番大事になってくるのは、役場これが1番肝心要だと思いますけども、今までの災害の津波でいくと、あそこら辺は1番先に、駄目になってしまうところかなというふうに思います。間違っていたら申し訳ないです。そうなってくると、これからやる事業の中で、三石国保病院ですか、国保病院を建てる時に、今の場所に置いたのであれば、結果は役場が建っている場所と何ら変わらない訳ですから、1番先に駄目になるんじゃないかなと。けがされた方、どこに行きますかって言ったら、三石から静内に行ければいいです、浦河に行ければいいです。ですけども、恐らく梶舞川の向こうの旧温泉のところから浦河には行けなくなるから、三石の病院もスポーツセンターからおりてあっち側に行けないだろうと言ったら、建設場所がすごく難しくなるんじゃないかなというふうに思います。そこら辺も、今後の建物を建てるに当たっての場所の検討をしていただきたいと私はそう思っています。これは私勝手に言う訳でもないし、</p>
---	--

<p>上田保健福祉部長</p>	<p>やってもらえるかももらえないかわかりませんが、要望希望として、そうならいいなというふうなことで、お話ししておきます。以上です。</p> <p>私の方から、三石国保病院の関係でお話出ましたので、そちらのほうお答えしたいと思います。今三石国保病院の建て替えの関係で、年度内を目途に、どこに建てたらいいのかという部分で、選定委員会を立ち上げて、そちらの中でいろいろ御意見いただいております。これが、2月中にもう1回、3月にもう1回、開かれた中で委員さんの中から、この場所がふさわしいのではないのかという場所を選んでいただきまして、それを町のほうに報告いただくというふうな流れになってございます。その中で、仮に山の上のほうがいいというふうな意見が出ましたら、山の上のほうに建設するのを検討しますし、今のところがいいというふうな意見が出ましたら、今のところ、建て替えというふうな方向で進んでいるというふうな流れになるのかなと考えてございます。町の方では、ここがいい、ここがいいと町の方で勝手に決めるのではなくて、地域から、選ばれた方たちが意見を出し合いながら、地域にとってどこがいいのかというところを考えていただいておりますので、その中で上がってきた意見を尊重しながら、考えていきたいというふうに思っております。</p>
<p>柴田総務部長</p>	<p>私の方から、前段で自主防災の話をしさせてもらいます。まさに●●さんおっしゃるとおり、他の地区でも同じような状況がありまして、自主防災組織を作った時は、それなりに機運もあって作ったんですけども、その後代が変わっていく度に、関わる人がほとんどいなくなって、実は私も私の父が自治会長をやっているんですけど静内で、自主防災組織のトップになってはいますが、動いてくれる人って考えた時にほとんどいなくなっているような状況でございます。先ほど一単位自治会ではなくて連合というお話もありましたけども、いきなりそんなことを話しても、すぐにはできないのかなと思いますので、もしそれ回答よければですね、連合自治単位として、集まれる役員さんだけでもいいですので、そういう防災のことをみんなで学ぼうじゃないかっていうような会、機会をつくっていただければ、町の防災担当が色々資料をお持ちして、今の状況を含めて皆様と情報共有するような場所を作っていきたいと思っておりますので、ぜひ声掛けをいただきたいなとそういうことを繰り返す中で、踏まえてもいい状況になっていけば、災害の時にも対応力が上がっていくんじゃないかなと思っておりますので、まず、単位自治会でも構いませんけども、ちょっと防災の話をして欲しいということであれば、すぐ、防災係までぜひお声を掛けいただければと思います。</p>
<p>自治会員A</p>	<p>今ですね、そういう防災組織を連合自治会でというようなご発言ありましたが、当連合自治会としてもですね、以前から、防災減災ということについて、何かできることはということで若干の模索をしてきた経緯はございます。そういうことで例えば自主的に備蓄とかそういうことになるとまた大変ですけども、やはり1番、我々ができそうなのは、啓蒙だろうと。先ほども心構えというご発言がございましたけれども、そういう心構えをいかにして持ってい</p>

自治会員D	<p>くか。周りと共有するし、していけるかと、いうことがやはり、いざというときに大きな支えとなり、減災につながるものだというふうに思っておりますので、やはりその啓蒙的な活動と、いうものを何らかの形で示していきたいなというふうに私は考えております。よろしく願いをいたします。</p> <p>どなたか。お答えできると思いますが、●●●付近のゴミですがあれの経過がどうなっているのか。また、経過をお知らせしていただきたいと思ひまして、前回町長が、「今回は直接、警察に尋ねてみると、それは私が解決する訳じゃないけれども、警察に私が直接聞いてみます」っていうことも聞いておりますので、町長よろしく願いします。</p>
大野町長	<p>細かいところは、お願いします。あんまり大っぴらに言えないところがありますが、実は警察署長と会う機会がありまして、動きについては聞いておりますけども、なかなか、警察が入ってどうのこうのするっていう段階まではまだ進んでないというふうには聞いております。ただ、警察の方としてもそういう声があるというのは従前から聞いているというふうに認識しておりますので、引き続き、きちっと取り組みたいというようなお話でした。ただ、中身についてはですね、あまり詳しく具体的なことは、警察の立場もありますのでそこまでは言っただけなかったですけども、認識としてはきちっと署長が変わってもお持ちだということは確認しております。</p>
中島地域振興部長	<p>今町長の方からもお話ありましたが、私の方から現状について、ご説明したいんですけども、私も定期的に現場のほうを確認させていただいているんですが、なかなか現状変わらないという中でございますが、堆積物につきましては、一応従前から話ししてるとおり、産業廃棄物ということで北海道、日高振興局の方で、指導を行うということですので、そこが主体となって今行っているところです。まず指導の内容的には、対象者の方に対して、まず新たなですね、堆積物は生まない、それから今ある既存の廃棄物について、再生といいますかリサイクルできそうなものと、そうではないいわゆるごみ的なものをきちんと区別しなさい。それから、最後にあそこに運び込んだ、事業者、排出者のところを特定して持ち込んだ方がちゃんとその場所から、運び出すというか、そういったこと、この3点をですね、指導内容としながら、いろいろ協議行っているところです。町としても、北海道の方で対応ということになりますけども、町も、定期的に現場を見た中で状況が変われば連絡を取り合っておりますし、できるだけ可能な範囲で振興局と、当人と間に打合せがあれば、町が入っていいということであれば、町も中に入った形で共有させていただいているところがございます。先ほど冒頭でお話ししましたけども、現状は余り変わってないというところで、地域の皆さんには、いろいろご心配をおかけしていると思ひますけども、そういった取組を進めているということをご理解いただきたいと思ひます。</p>

<p>自治会員A ・防災について</p>	<p>先ほどちょっと長く、要望と意見というものを申し上げましたけれども、基本的によろしいですから、私が要望として上げましたことについて対策として取り上げる可能性があるものがあるのかどうか、ちょっと町長はじめお答えをいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>大野町長</p>	<p>私の方から、今考えていることをお話しさせていただきます。1番最初に自治会員Aがおっしゃったのはプライバシーの確保ということでした。実はもう3年ぐらい前当時今、横に座っている上田部長が、当時総務課長で担当していたんです。その時に、こういう室内にテント状の物をどうだということで、実はテント状の本当に簡単に広げられる、プライバシーが確保できるようなものを、50個ぐらい買いましたかね。50個ぐらい用意してそれで避難訓練の時に、実際に段ボールベッドも作りますし、そういうものも開けて、こういうものがありますよということをやっているところです。それで1番、自治会員Aがおっしゃった中でもっともだなと思えたのは、太平洋側が被害を受けましても、日本海側が大丈夫ですよ。あの町からこれもらったらいいんじゃないって話だと思いますが、その辺は今の能登半島の事例でもそうなんです。例えば、都道府県、北海道が中心になって各市町村にこういう物資が無いか、こういう物資を送れないかというのを全部来る訳です。そういう中で、我々のところにも来まして、いや全部出す訳にはいかないですが、半分ぐらい協力しましょうかということで、我々やりとりしています。そのほかに避難している方々のメンタルのところ、これも主には保健師さんの仕事になると思いますが、保健師さんについても、実は自治体に対して、北海道から保健師さんを派遣することができないかと来る訳です。ですから我々も行ける範囲で応援しようということで今登録はやっていきますけども、そういう市町村と市町村の間の連携ということではなくて、その上にある都道府県、そこが全部集約して今コントロールしています。そういう状況になっています。それで発電機の問題がありましたが、発電機については5年ぐらい前でしょうかあくまで地震があった後にすぐに車に載っている発電機、車載型のものですけども、それを1台購入して持っています。それはですね、ガスボンベで発電しますけどもかなりな容量があります。本当に例えばここがもう電気全然駄目で、ここに置いてある発電機も駄目だったらその車で発電を起こせるような、そういう車1台持っています。5年ぐらい前に買いましたが1回も、そういう状況になっていないのでうれしい限りなんですけども。あと水の問題ですけども、水は備蓄をしているものが3日分は2,000人分の3日分ですけどあります。それ以前に、三石地区の水道管はかなり古くて、今毎年毎年三石地区の方は水道管の入替えをやっています。1番心配なのは、我々の町の中で対応をちょっと悩んでいるところがペットの問題です。避難所にペット持ってきた時にどうするか、猫でも犬でもですね。そここのところが今、具体的な対応を検討している最中ですけど、これ1番難しいのかなというふうに思っています。あと最後になりますけども、トイレ、これも悩ましいと思います。今全国的にはですねトレーラートイレというものがありまして北海道でも1か所どこかの市町村が持っていて、車で引っ張っていきけるトイレなんです。それを今、能登の方に送っているは</p>

<p>自治会員A</p>	<p>ずですけども、そういう全国的に、持っている自治体は20数か所しかないと思いますけど、そういうところが協力しながら能登の方に全部トレーラートイレを運んでいるという、そういうような話も聞いておりますので、そのトレーラートイレ、確か2,000数百万するものですけども、うちの町では持ってないですけども、そういうときになったときには本当にもう全国的なネットワークの中で動かしているっていう状態ですので、ある程度そのネットワークづくりはできているのかなというふうに思っています。ただ、あれぐらいの被害が出た時にはそれが機能するまでには時間が必要なんです。だから、一時避難所、それから、一時避難所からどこかに移せるような状況というのはやはり基礎的自治体のところ、町の中を全部知っているところが責任を持ってやらなきゃならないということになりますので、特に地震津波の時には、役場職員中心でですね、あと自主防災組織もそうですし消防もそう、警察もそうですけどみんなの力で、一時的な対応はやっていかなきゃならないのかなというふうに思っています。心配すれば本当に切りはないですけども、最後は自分自身で、その場に応じた判断をしながら、立ち向かっていくしかないのかなというふうに思っています。以上です。</p> <p>どうもありがとうございます。今町長がおっしゃられた中で最後になりますけれども、トイレのことばかりこだわる訳ではありませんけれども、やはりそういう全国的なネットの支援体制、あるいは道の支援体制というものもありませんけれども、やはり道路の欠損であるとか、そういう状態も起きかねないということもありますんで、やはり、まず、その3日ぐらいは、避難する人の数にもよりますけれども、持ちこたえと、その避難民が苦勞しなくても済むような、最低限のところをそれぐらいはやっぱり、いろいろネットも良い製品もあります。そんなに高額でなくて非常用トイレだって、非常に何て言いますか、始末もしやすい、においなんかも出ないというようなものがありますので、そういうものもよく研究をされて口幅ったいですけども、検討された上で十分な備蓄をしておいていただければ、そのあと、支援等が届いてくれれば十分またそれ以上の対応ができるんだろうなと思いますけれども、まずはもう今回の地震のあれを見ましても、3日ぐらいでもうパンクしてしまう訳ですよ、3日もたたないうちに。そうするとやっぱり、これが1番大変だろうなとつくづくそう思ったもんですから、ちょっと口幅ったいですけども御意見として申し上げ、要望として申し上げました。</p>
<p>閉会挨拶 大野町長</p>	<p>●●さんのご心配、本当にもっともなところでございます。トイレも特に女性の方が1番大変ですよね。ですからその辺についてはご意見を伺いながら、私どももできる限り取り組んで参りたいというふうに思います。本当にまだこれからですね。災害いつ起こるか分からないということで、実は月曜日休みの、3連休の最後の日に東京に行きまして、次の日の火曜日、防災関係の道内の12の市町の町長、市長と、それから、道議会の議員の方と、それから北海道と、この防災関係の予算の関係で要請活動をしてきました。国会議員のとこ10名ぐ</p>

	<p>らいですね。あとは、国土交通省の方にも行きまして、特に、その予算の確保についてお願いをしてきたところでございますので、そういう動きも通じながら、この町で利用できる予算を、引き続き国の支援を受けながら進めていければなというふうに思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。本日は本当にありがとうございました。</p>
閉会	18:53 終了